

外務省委託

# 平和構築・開発における グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

平成28年度 事業活動レポート

We work for world peace!



不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC) URL : <http://www.peacebuilderscenter.jp>

東京事業運営事務所 : 〒102-0082 東京都千代田区一番町6 相模屋本社7F TEL:03-4334-3119 FAX:03-4334-3120

広島本部事務所 : 〒734-0011 広島県広島市南区宇品海岸1丁目11-11-1003 TEL : 082-530-2656

©外務省 デザイン・編集:一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC) 発行:2017年3月

広島平和構築人材育成センター  
Hiroshima Peacebuilders Center (HPC)



# 私たちが目指す 平和構築の専門家の育成 主要機関からのメッセージ

岸田 文雄 外務大臣

世界各地で依然として紛争が続く中、国際社会では紛争後社会における平和の定着に向けて、紛争再発の予防から国造りや復興開発に至るまでの継ぎ目のない支援を実施することが求められています。そのため、紛争後の平和構築及び開発支援では、法の支配、人権擁護、ジェンダー、行政能力など幅広い分野において、高い能力と専門性を備えた文民専門家の役割が益々重要となっておりますが、担い手の不足が深刻な課題でもあります。こうした状況を踏まえ、我が国では、国際協調主義に基づく積極的平和主義の実践として、平和構築や開発の現場において即戦力となる人材の育成を実施し、この事業を通じて、国際社会の平和と繁栄の創造に貢献できるより多くの人材が輩出されることを願っています。



オリビエ・アダム 国連ボランティア計画 (UNV) 事務局長

平和の恩恵を受けること、あるいは参加型の社会、経済開発を進めることが極めて困難である地域や国において、ボランティアリズムは主要な役割を担っています。ボランティアリズムは緊急支援から復興までの移行を促進し、また脆弱な環境が慢性化しているコミュニティのキャパシティを強化する上でも重要な要素となっております。

広島平和構築人材育成センター (HPC) と国連ボランティア計画 (UNV) は互いに協力し文民専門家をグローバルなレベルで活躍する人材へと育成することを目的とし、「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」を実施しています。事業は任地においてだけでなく自国においてもボランティアリズムを促進する人材を育成すると同時に、相互的な連帯が強まる世界において必要とされる豊富なキャリア、そしてリーダーシップを養成する機会を提供しています。



国連ボランティア計画は平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業を通じて世界の最も困難といわれる地域における経済開発や平和構築に貢献しているボランティアをとても誇りに思っています。今後のキャリアを構築する段階にいる若い人々にとって任地での経験は貴重なだけでなく、より自身の志を高めることとなるでしょう。彼らは任地での貢献以上に異なる文化、異なる国で生きる人々と共に暮らし、そして仕事をするというなにもにも代えがたい経験をするのです。

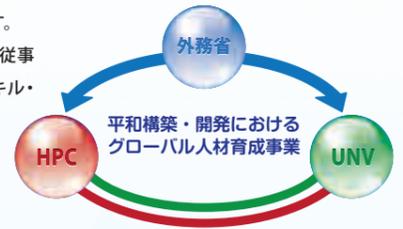
長谷川 祐弘 HPC評議委員会委員長／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・アドバイザー／元国連東ティモール担当事務総長特別代表

ピースビルダーズの役割は、変換していく平和の本質と共に変化を遂げています。国連創設時には単に紛争のない状態を示唆していたものが、冷戦終結に伴い多様化しました。21世紀になってから、紛争の根源的な原因を除去し、法の支配と民主主義に基づいた恒久的な平和の構築が、平和活動の任務となりました。近年の紛争の根源的な原因がイデオロギー化し、国際社会や関係諸国の指導者や市民の思考方法の変化と、普遍的な理念や人間の行動規範の融和を保ちながら、現地の社会の伝統と価値観の統合が求められて来ております。指導者は自由と権利を自らの欲望の自制と他人への「思いやり」の気持ちで、平和構築支援に携わる者は、現地社会の自覚と独立の精神を尊重し、新たな時代における新たな平和構築を目指すべきでしょう。



# 平和構築・開発における グローバル人材育成事業とは

本事業は、平和構築・開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省委託の人材育成事業です。平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「プライマリー・コース」、平和構築・開発分野ですでに従事して今後更なる活躍を目指す方のための「ミッドキャリア・コース」、また平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識等を提供する「キャリア支援セミナー」などを実施します。8年間にわたり、外務省委託「平和構築人材育成事業」を実施した広島平和構築人材育成センター (Hiroshima Peacebuilders Center: HPC) が、本事業の運営にあたり、プライマリー・コースの海外実務研修部分は国連ボランティア計画 (United Nations Volunteers programme: UNV) が実施しています。



## 平和構築・開発の担い手をつくります

世界各地の様々な問題の解決に貢献する人材が求められています。平和構築、開発援助、人道援助などに従事する、多様な分野のいろいろな能力を持った人びとが必要とされています。

しかし支援の担い手になるためには、専門的な知識だけでなく、高度なコミュニケーション技能など複雑な業務を遂行するための能力を身につけておくことが求められます。目標に向かって進んでいく強い意志も必要でしょう。様々な業務経験も積んでいかなければなりません。

そのような平和構築・開発支援の専門家になることは、決して簡単なことではありません。専門家の育成には時間がかかります。そこで専門家を支援していく仕組みも求められます。必要とされる人材を育成するための事業も必要となってくるのです。

本事業は、危機に立ち向かう支援の担い手を一人でも多く育成していくために、開始されました。専門家になるための知識・技能を付与するだけでなく、様々な経験を通じて自分自身のコンピテンシー (業務能力) を磨き直す機会も提供し、専門家との交流を通じた切磋琢磨する専門家コミュニティのネットワークを広げていくことも手助けします。

日本の平和構築の経験を活かしながら、国際社会で活躍する専門家を「ヒロシマ」から送り出していくことを目指します。それは日本が平和構築にいかにか真剣に取り組むのかを世界に示すメッセージにもなるでしょう。

さらなる貢献のために、日本から世界各地に飛び立っていく国際的な専門家を、世界の多くの人々は待っています。



篠田 英朗

HPC代表理事／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター／東京外国語大学教授

ロンドン大学 (LSE) Ph.D. (国際関係学)。平和構築などに関する著書・論文を多数執筆。代表作: 『平和構築と法の支配』 (大佛次郎論壇賞)、『国家主権という思想』 (サントリー学芸賞)、『平和構築入門』、『国際紛争を読み解く五つの視座』。

## 本事業の運営にあたって

本事業の運営にあたって、実施団体であるHPCとしては、平和構築・開発の担い手を育成する、という目標に徹底的にこだわりたいと考えています。そのためにHPCは、参加者の意識・能力・環境の向上を図ることを目指しています。

まず、本事業に参加した人々が、平和構築・開発支援に対し一層強い意思を固めていくようになってほしいと願っています。世界の問題について深く知り、その解決方法について関心を強めていくことを通じて、使命感とともに、自信を深めてもらいたいと考えています。国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めることができるような事業にしたいと考えています。

ただし、平和構築・開発支援の専門家になるためには、専門分野に精通した能力が必要です。最先端の知識・技能を効果的に参加者の方々に身に付けてもらうための工夫を施すことは当然極めて重要なこととなります。平和構築・開発支援の最前線で活躍している方々の知見を最大限に吸収することができるような事業にしたいと考えています。

加えて、HPCは、平和構築・開発分野の専門家が自分自身のキャリアを構築し続けていける環境を整備していくことを心がけます。本事業の参加者が得られる財産は、こうした分野の専門家コミュニティに加わることによって得られる人的ネットワークであるとも言えるでしょう。励ましあい、刺激を与え続ける年齢や国境を越えた仲間たちを培うことによって、専門家が専門家として進み続けるキャリア構築の環境が生まれてきます。こうした国際支援に情熱を持つ人々が、自分たち専門家のコミュニティを形成していくことができるような事業にしたいと考えています。

人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間を歓迎し続けています。



## CONTENTS

主要機関からのメッセージ ..... P.2

平和構築・開発における  
グローバル人材育成事業とは ..... P.3

プライマリー・コース  
国内研修 ..... P.4

プライマリー・コース  
海外実務研修 ..... P.6

キャリア構築 ..... P.7

ミッドキャリア・コース ..... P.8

キャリア構築支援 ..... P.10

■キャリア支援セミナー

その他の活動 ..... P.11

■JPO派遣候補者赴任前研修  
■海外機関との関係強化



# プライマリー・コース 国内研修

## 世界最高水準の講師を迎え、現場での即戦力を育成

平成29年1月13日から2月24日の約6週間にわたり、東京と広島においてプライマリー・コースの国内研修を実施しました。プライマリー・コースは、平和構築及び開発分野においてキャリアを構築する強い意志を持つ人々を対象に、平和構築・開発支援のために活動する人材を育成することを目的として実施しています。

国内研修には、日本人研修員15名、アジア・中東・アフリカ各国の外国人研修員10名の計25名が参加しました。世界各地の平和構築・開発の現場経験が豊富な講師陣の下、当分野の専門家として必要な実践的知識・技能・経験を研修員が得られるよう、紛争状況の分析や活動の立案、多様な組織の調整や情勢に応じた活動の管理といった問題意識に応じた研修を実施しました。また、その効果を最大限に高めるために、ロール・プレイやチーム作業といった演習を様々なテーマで行いました。

日本人研修員は国内研修終了後、海外実務研修において国連ボランティアとして平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ派遣され、実際の平和構築・開発の業務に従事します。充実した国内研修を通じ平和構築・開発の専門家への第一歩を踏み出す研修員たちの今後の活躍が大いに期待されます。



平成29年1月13日、研修員による外務省表敬訪問



Message

講師

忍足 謙朗

HPC評議委員/元国連世界食糧計画(WFP)アジア地域局長

プライマリー・コースは、平和構築や人道支援、開発援助の分野でのキャリアを目指す研修員にとって貴重な学習機会を提供しています。研修員たちは、国連システム、研究機関、市民社会などの多種多様な講師の方たちと活発に交流する機会を得ることができます。加えて、研修員自身も異なった国際的な背景を持っているので、互いに学びあい、その過程を楽しみ、長期的な友情を築くことができます。日本人研修員にとっては国内研修を受けた後、研修の一環で国連ボランティアとして海外へ派遣され、実際に国連機関での職業経験を得ることになるので、大変ユニークな機会です。

このコースでの私自身の役割は、困難な国際環境、特に“現場”で働く際に、私が重要だと考える実践的な知識やスキルを提供することでした。プライマリー・コースは、国際協力のキャリアを目指す若きプロフェッショナルを育成するために日本で提供される最高の学習プラットフォームのひとつでしょう。



Message

プログラム・オフィサー

上杉 勇司

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・オフィサー/早稲田大学教授

ケント大学Ph.D.(国際紛争分析)。国家建設、治安部門改革、民軍関係に関する編著を出版。著書:『紛争解決学入門』、『変わりゆく国連PKOと紛争解決』(国際安全保障学会加藤陽三賞)。第2回秋野豊賞受賞。

本事業の最大の宝であり、日本の平和構築支援にとつての希望の星は、プライマリー・コースの研修員です。本事業を通じて、日本人研修員の場合は、国内研修の後に一年間の海外実務研修を経て、その多くが平和構築の現場で活躍し、国連による平和構築支援に継続的に関与しています。修了生たちは、国連PKO、国際機関、外務省、JICA、NGOといった多様な組織で、平和な社会を作るために尽力してくれています。なかには、国連の中堅職員として、重要な職務を担うようになった者もいます。現場を愛する「フィールドワーカー」から、組織やチームを統括する「マネージャー」への転身が求められる段階に差し掛かってきた者も出てきました。本事業を通じて培ったリーダーシップ、スキル、ネットワークを活かして、修了生たちは、国際社会による平和構築支援のあり方に、新しい風をもたらしてくれるでしょう。



## 国内研修カリキュラム・講師紹介

開講式 水嶋 光一  
外務省総合外交政策局 審議官(国連大使)

外務省表敬訪問 小田原 潔  
外務大臣政務官

### 第1週



- 佐藤 美央  
国際移住機関(IOM)東京事務所 駐日代表
- 根本 巳政  
国連児童基金(UNICEF)東京事務所 副代表
- 青柳 仁士  
国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所 副代表補・上席渉外広報官
- 古本 彦彦  
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) 駐日事務所 渉外担当官
- 吉波 早希子  
独立行政法人国際協力機構(JICA) 社会基盤・平和構築部 平和構築・復興支援室 調査役
- 濱井 貢  
国連世界食糧計画(WFP)日本事務所 政府連携担当官

陸上自衛隊 駒門駐屯地訪問

### 第2週

#### アナリシス

紛争分析の理論と様々な方法  
政治的・法的分野(和平調停・裁判所等)の政策的課題



- 平原 弘子  
国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)・ベンティウ事務所長
- 小野 京子  
国連政務局(DPA) Middle East and West Asia部 シリア担当 政務官
- マーシャル・コンリー  
平和活動と紛争復興に関する国際コンサルタント/コンリー国際教育コンサルタント代表
- 藤原 広人  
国際刑事裁判所(ICC)書記局・対外活動局 国際分析ユニット長
- アブラハム・アオリッチ  
スッド・インスティテュート 総務・財務ディレクター
- 水田 慎一  
国連ソマリア支援ミッション(UNSOM) 官房長室統合分析チーム長



### 第3週

#### プランニング

プロジェクト/ミッション立案の手法  
安全保障分野(DDR・SSR・PKOミッション等)の政策的課題



- モハメッド・エル・アミン・スエフ  
国連マリ多面的統合安定化ミッション(MINUSMA) ガオ地域事務所長
- フィリップ・シエトラ・ジョーンズ  
世界経済フォーラム国際安全保障プラクティスリード
- 野田 章子  
駐モルディブ共和国国連常駐調整官/国連開発計画(UNDP)常駐代表/国連人口基金(UNFPA) 代表



### 第4週

#### コーディネーション

多様な組織間の業務調整・交渉の手法  
人道援助活動(ジェンダーや児童保護等含む)の政策的課題



- ギヨーム・フォリオ  
人道問題・緊急管理に関する独立コンサルタント・講師
- イ・キョンシン  
韓国国際開発協力民間協議会プログラム・ディレクター
- 大庭 真理枝  
UNウィメン紛争下における性的暴力に関するアドバイザー 国連コンゴ民主共和国安定化ミッション(MONUSCO)
- ピーター・コゼレツィ  
国連難民高等弁務官(UNHCR) バンコク事務所 国際人道援助緊急事態対応訓練地域センター コーディネーター
- 忍足 謙朗  
HPC評議委員/元国連世界食糧計画(WFP)アジア地域局長



### 第5週

#### マネジメント

プロジェクト運営の手法  
開発援助活動(各種援助スキームを通じた支援)の政策的課題



- エドワード・ジョンブラ  
西アフリカ平和構築ネットワーク・シエラレオネ(WANEP-SL) ナショナルコーディネーター
- 中村 俊裕  
コペルニク(Kopernik) 共同創設者兼CEO/大阪大学大学院国際公共政策研究科 准教授
- 稲葉 光彦  
国連ボランティア計画(UNV) 管理サービス部オペレーション課長



### 第6週

#### 安全管理術/ キャリア構築/ キャリア・マネジメント



- 垂井 美枝子  
HPC評議委員/合同会社グローバルリーダーシップ代表・創設者
- 佐藤 知央  
オフィスクラッチ代表
- ジョン・キャンベル  
ルイス・ロビンソン  
忍足 謙朗  
玉内 みちる



※講師の肩書は平成29年3月当時のものです。



# プライマリー・コース 国内研修



Message 研修員

## アル・ゾウバ・アフラ (イエメン)

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業は、グローバルな平和構築の取組に対する日本の貢献のひとつです。研修の内容と活動は、平和構築・開発分野に関心のある人々を有能な平和構築人材にするための準備を主たる目的とし、構成されています。

この目的を達成するために、国連諸機関や主要機構での幅広い経験を有し、豊かな知見と能力を持つ世界各国の講師陣が、平和構築・開発の実務によって得た彼らの経験と知見を共有していただきました。研修の多様な要素から私たちが得た学びは、豊富な議論や検討作業によって高められました。

論理的に順序立てられた研修は、対象となる問題の文脈全体を理解することから始まり、具体的なアウトプットとアウトカムを伴う実際の柔軟な計画の構築、また他のパートナー組織との効率的な調整、最後に本研修を通じて抽出されるマネジメント技術とコンピテンシー(業務能力)を明確化します。自由時間に人的ネットワークを形成し学べる環境が整っており、人事の専門家による研修員への個人面談も行われました。

研修中実施された自衛隊駒門駐屯地訪問やエクスカッションは、現場においてコミュニティの繁栄を達成するためにいかにどの平和が必要とされるかを確認する良い機会となりました。

この研修で私が得た学びや経験は、私たち研修員にとって平和構築・開発の貢献者としての道を切り開く大きな財産になると思います。



Message 研修員

## 山本 祐一郎

このコースに参加する前、私は5年間国際NGOで勤務していました。そこでは草の根レベルでの支援活動に携わることができ、やりがいを感じていましたが、他方で国際機関での経験を積みながらさらに自らの視野を広げたいと考えようになりました。

また、これまで平和構築という分野にはあまり馴染みがなく、他の研修員とともに基礎から学ぶ機会を得ることで、コンピテンシー(業務能力)の向上につなげたいと考えプライマリー・コースへ参加しました。

同じ志をもつ日本や海外からの研修員たちと6週間寝食を共にし、学ぶことができる国内研修はとても刺激的でした。講師も他の研修員も多種多様なバックグラウンドを持つ方々で、活発な議論が交わされグループワークでも様々な視点からの意見が飛び交いました。また自由時間でも意見を交換し、ネットワークを形成する機会があり、大変貴重な時間を過ごせたと感じます。私の専門は教育なので、研修で学んだことを活かして、子ども達がより良い教育を受けられるような環境作りを今後携わってまいります。



# プライマリー・コース 海外実務研修

※PKO、SPM含む

## 海外実務研修の派遣先実績

※平成27年度プライマリー・コースの海外実務研修先

- UNDP (国連開発計画) エチオピア、シエラレオネ
- UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) エジプト、セルビア、マケドニア共和国
- UNICEF (国連児童基金) スーダン、キルギス共和国
- WFP (国連世界食糧計画) パキスタン、東ティモール、ルワンダ
- UNODC (国連薬物犯罪事務所) セネガル
- Serbia, Republic of Macedonia, Kyrgyz Republic
- Egypt, Pakistan, Senegal, Sudan, Ethiopia, Sierra Leone, Rwanda, Timor-Leste



平成19年度～27年度までの9年間の派遣先機関数：**22機関**  
派遣先総数：**46カ国・地域**



Message 平和構築人材育成事業 平成23年度本コース\*研修員

## 池田 祥規

国連プロジェクトサービス機関 (UNOPS) ミャンマー事務所 パフォーマンスマネージメント・オフィサー

平和構築・復興支援の分野でNGO、開発コンサルティング会社に勤務した後、プロジェクトの上流から現場の実施機関が活動しやすい環境をつくることこそ、より質の高い援助を実現する近道と考え、「本コース」に参加しました。海外実務研修先の国連開発計画 (UNDP) 南スーダン事務所においては、コミュニティレベルでの平和構築プロジェクト

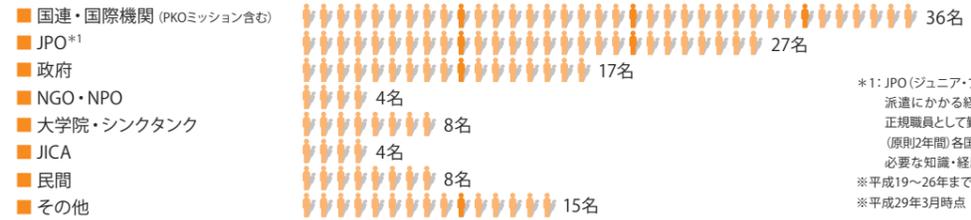
に携わりました。本コースの構成は国内研修の内容はもちろんのこと、派遣先にて日本の援助機関とは異なるダイナミクスで動く国連のシステムや、その中での働き方を学ぶ上で大変役に立ちました。その後JPO派遣候補者選考試験に合格し、現在は国連プロジェクトサービス機関 (UNOPS) ミャンマー事務所に所属し、当国における最大規模の保健プログラムで、紛争影響地域でのプロジェクト実施にあたっての紛争予防配慮の主流化を担当しています。今後は専門性をさらに高め、UNOPS内および国連における紛争予防配慮の強化に貢献していきたいと考えています。



# キャリア構築

## 修了生の現在のフィールド

コース終了後の研修員は、国連機関をはじめ、さまざまなフィールドで活躍しています。



\*1: JPO (ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー) とは、日本政府が派遣にかかる経費を負担することにより、将来的に国際機関で正規職員として勤務できることを志望する若手日本人が、一定期間 (原則2年間) 各国際機関で職員として勤務し、正規職員となるために必要な知識・経験を積み機会を得る制度です。  
※平成19～26年までの、修了生119名のデータ  
※平成29年3月時点

## 研修後の主な活躍の場

国連機関 ▶ UNDP (国連開発計画) ▶ UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) ▶ UNICEF (国連児童基金) ▶ UNESCO (国連教育科学文化機関) ▶ WFP (国連世界食糧計画) ▶ FAO (国連食糧農業機関) ▶ UN Women (ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関) ▶ UNCRD (国連地域開発センター) ▶ UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) ▶ OUNF&P (国連基金・計画事務所) ▶ DPKO (国連平和維持活動局) ▶ WHO (世界保健機関) ▶ UNMAS (国連PKO局地雷対策サービス部) ▶ UNV (国連ボランティア計画) ▶ UNRCPD (国連アジア太平洋軍縮センター) ▶ UNOPS (国連プロジェクト・サービス機関) ▶ UNFPA (国連人口基金) ▶ UN Secretariat (国連事務局) ▶ UNU (国連大学) ▶ UN-Habitat (国連人間居住計画) ▶ OCHA (国連人道問題調整事務所) ▶ UNODC (国連薬物犯罪事務所) ▶ PKO訓練センター ▶ KAIPCT (コフィ・アナン国際平和維持訓練センター) ▶ 国連平和活動ミッション ▶ MONUSCO (国連コンゴ民主共和国安定化ミッション) ▶ UNAMA (国連アフガニスタン支援ミッション) ▶ UNAMID (ダルフルール国連AU合同ミッション) ▶ UNAMI (国連イラク支援ミッション) ▶ UNIOGBIS (国連ギニアビサウ統合平和構築支援事務所) ▶ UNMIS (国連スーダンミッション) ▶ UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) ▶ UNSOM (国連ソマリア支援ミッション) ▶ UNMC (コロンビア特別政治ミッション) ▶ 国際機関 ▶ IOM (国際移住機関) ▶ INTERPOL (国際刑事警察機構) ▶ ICRC (赤十字国際委員会) ▶ World Bank (世界銀行) ▶ OSCE (欧州安全保障協力機構) ▶ Medecins du Monde Japon (世界の医療団) ▶ JCCP (日本紛争予防センター) ▶ International Lifeline Fund ▶ World Vision Japan ▶ INTERSOS ▶ ADRA Japan ▶ NICCO (日本国際民間協力会) ▶ Action Contre la Faim ▶ CCP Japan (パレスチナ子供のキャンペーン) ▶ ケア・インターナショナル ▶ 政府関係機関 ▶ 外務省 (本省・在外公館) ▶ 内閣府 ▶ JICA (日本国際協力機構) ▶ JICE (日本国際協力センター) ▶ 広島県 ▶ 鈴鹿市 ▶ 入国管理局 ▶ その他の公的機関等 ▶ IGES (地球環境戦略研究機構) ▶ 結核予防会結核研究所 ▶ 笹川平和財団 ▶ 教育機関、医療機関、法務・政務事務所等

## キャリア構築例

	研修参加前	海外実務研修	研修終了後のキャリア
 <b>井上 (寺西) 悦子さん</b> <平成19年度1期生>  <b>応募動機</b> 第一線で活躍する講師陣から平和構築について実践的に学べること、また、NGOでの経験がなかったため、UNVとして国際機関でのフィールド経験が積めることに魅力を感じて応募しました。	NGO職員として、ラオス、カンボジアで農村開発、民生安定化事業に従事した後、オーストラリアの大学院で国際政治 (平和と紛争解決学) の修士号取得。在籍中、オランダの平和構築NGOでインターン経験。	国際移住機関 (IOM) インドネシア・アチェにて、紛争後復興事業の元職員の社会復帰支援に従事。	JICA研修員受入事業に従事。その後IOMネパールで人身取引被害者社会復帰支援プロジェクト担当 (JPO) を経てケニアのIOMカクマで難民ホストコミュニティ支援。現在はIOMナイロビで、地域安定化、国内避難民への緊急支援、移民・国境管理事業等にプログラムマネージャーとして勤務中。
 <b>柴田 昌和さん</b> <平成21年度3期生>  <b>応募動機</b> 和平プロセスの安定化、国家制度の再構築、そして紛争予防など、平和構築に伴うプロセスについて体系的に学べるコース内容に興味を持ちました。更に、この分野の第一線で活躍されている研究者、実務家からなる講師陣により、実践的な指導を受けられることや、それぞれの分野で豊富な研修員たちとの交流を通じて、平和構築に対する考えを深めていけることに魅力を感じました。	大学卒業後、IT関連企業、広告代理店勤務を経た後、国連開発計画 (UNDP) アンゴラ事務所では市民社会を繋ぐIT基盤整備事業に携わり、国連児童基金 (UNICEF) プータン事務所では広報・マーケティング業務を担当。	カーボヴェルデ国連事務所では、広報官として赴任。この国は世界で8つあるOneUN (ひとつの国連) 改革のパイロット国の一つです。この改革に沿ったコミュニケーション戦略の立案からその実行、運用まで多岐にわたる。	スウェーデンの大学院で開発コミュニケーション学の修士号を取得し、その後、メディア専門家として、国連教育科学文化機関 (UNESCO) 東アフリカ地域事務所、情報コミュニケーション (CI) 局に所属。情報と知識へのアクセスを促進するための能力強化事業に携わる。その後同事務所の広報官として、再び広報業務に従事。現在は、書記官として在ケニア日本大使館に勤務。
 <b>相良 祥之さん</b> <平成24年度6期生>  <b>応募動機</b> 国連の平和活動 (PKO・特別政治ミッション) もしくはそれらが展開する紛争 (後) 国においてフィールド経験を積みたいと考えました。	大学時代に国際政治や安全保障を勉強したのち、IT系企業に就職し、新規事業開発や事業提携における交渉やプロジェクトマネジメントを担当した。働きながら大学院に通い、国際紛争や国連の平和活動について研究。その後、国際協力機構 (JICA) 本部に転職。民間企業およびJICAにおいて合計8年間ほど実務経験を積んだのち国際機関へ。	国際移住機関 (IOM) スーダン事務所に選挙支援担当官として赴任。途中で事務所長室にうつり、事業開発担当官として新規プロジェクト立ち上げ、日本政府やEUなどドナーとの連携、ダルフルールにおける人道支援や平和構築案件の実施などを担当した。	引き続きIOMスーダン事務所でもコンサルタントとして1年ほど勤務。JPO試験に合格し、2015年から国連事務局政務局 (DPA) 政策・調整部。



# ミッドキャリア・コース

## 平和構築・開発専門家の更なるキャリア構築のためのスキル、能力の深化と実践

ミッドキャリア・コースは、平成28年8月7日から13日の7日間にわたり、東京で実施されました。平和構築・開発分野にかかわる実務に既に10年以上従事している方々を対象に、国連やその他の国際機関における平和構築・開発分野でのキャリア発展を目的として実施されました。日本人13名、外国人3名の計16名が参加し、7月31日には国連や国際機関での勤務未経験者を対象に、平和構築及び開発における国連システムに関し、事前研修を実施しました。

本研修では、組織における立場の変化と複雑化する業務への対応という課題において、必要となる総合的な応用力養成を目指し、ロール・プレイ演習などを通じて国際機関における「コンピテンシー（業務能力）」である「コミュニケーション/ネゴシエーション」、「リーダーシップ/マネジメント」の強化に焦点をあてました。講師陣のフィードバックをもとに更なる個人のパフォーマンス向上を図り、グループエクササイズを通してネットワークの形成が図られました。



Message

講師

田中 美樹子

国連開発計画 (UNDP) イエメン事務所長

国連は平和維持、政治、人道、開発分野の専門家たちを結集させて平和を目指し、一体となって活動を進め得る場でもあります。しかし国連が掲げる「Delivering as One」は常にある状況ではなく、また容易に遂行できることでもありません。逆に国連システムが一貫性及び協調性の欠如した行動に出ることによって、紛争・災いの渦中にある国や人々に重大な影響をもたらすことすらあります。効率的なチームを構築する上でのリーダーシップはすべてのレベル、そしてすべての分野にわたり重要なものです。ミッドキャリア・コースは平和のためのリーダーシップを総合的に学ぶ貴重な場を提供しています。参加者も講師も様々な組織を背景に多様な知識・経験を持ち寄って来ていますが、皆平和を構築したいとの念願と目的意識を持って結ばれています。国連の仕事で培った洞察や経験を率直に分ち合い、問題点や反省点を分析・検証・議論し合うことにより参加者間の意識を高め、見地を深めていきます。そして参加者それぞれの職務において、いかなるリーダーシップを執り、どのようにチームやネットワークを形成して、平和とより良い世界の構築に向けて進められるのかを学んでいきます。



## カリキュラム・講師紹介

### 事前研修

小山田 英治

HPC評議委員 / 同志社大学大学院  
グローバル・スタディーズ研究科教授

小阪 真也

HPC調査業務担当 / 東京外国語大学非常勤講師

### 1st. Stage 国際機関における コミュニケーションと交渉能力

アンドリュー・カシム

クルーシャル・コミュニケーション代表取締役

忍足 謙朗

HPC評議委員 / 元国連世界食糧計画  
(WFP) アジア地域局長

Day 1 概要：コミュニケーションと交渉

マイク・フィグリオーロ

ソートリーダーズ創設者・代表取締役

篠田 英朗

HPC代表理事 / 平和構築・開発におけるグローバル  
人材育成事業プログラム・ディレクター /  
東京外国語大学教授

Day 2 実践的な対人スキル

長谷川 祐弘

HPC評議委員会委員 / 平和構築・開発における  
グローバル人材育成事業プログラム・アドバイザー /  
元国連事務総長特別代表 [東ティモール担当]

上杉 勇司

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業  
プログラム・オフィサー / 早稲田大学教授

Day 3 実践的な広報スキル

### 2nd. Stage 国連システムにおける リーダーシップとマネジメント能力

ジャック・クリストファイス

国連平和維持活動局 (DPKO) アフリカII 部部長

田中 美樹子

国連開発計画 (UNDP) イエメン事務所長

Day 4 概要：リーダーシップとマネジメント

ジョアンヌ・バレット

国連中東特別調整官事務所 (UNSCO)  
地域問題ユニット長

野田 章子

駐モルディブ共和国国連常駐調整官 /  
国連開発計画 (UNDP) 常駐代表 /  
国連人口基金 (UNFPA) 代表

Day 5 国連平和活動の機能と動向

アンセルメ・ヤボーリ

国連コートジボワール活動 (UNOCI)  
事務総長首席副特別代表特別補佐

吉澤 啓

独立行政法人国際協力機構 (JICA)  
アフリカ部参事役 (TICAD・開発政策分析担当)

Day 7 演習：国連システムにおけるリーダーシップ

Message

参加者



ロシニョーリ 正代

味の素株式会社 研究開発企画部 途上国母子栄養改善担当

ミッドキャリア・コースは、私のキャリア観を驚く程に変えた素晴らしい経験となりました。私は現在、日本の食品企業に勤務し、国際機関との連携事業を担当しています。開発分野の経験が主で平和構築分野の経験は有りません。研修は、私の日常業務にも多に活用出来るコミュニケーション・ネゴシエーション理論から始まりますが、演習では「ルワンダ・キベホ虐殺」といった緊迫した題材が取り上げられて途端に困難度が上がります。演習とはいえ、私がこれまでに経験したことが無い重いプレッシャーを感じました。しかし、経験豊かな講師陣や参加者から、この様なプレッシャー下でいかに効果的にコミュニケーションを図り、影響を与え、変化をもたらすことが出来るか、そのリーダーシップのあり方を含め学ぶことが出来ました。そして、このコースへの参加を通して、私の業務能力の目標レベルは愕然と引き上げられました。このコースでの学びや出会いを今後の糧としていきます。



※講師・参加者の写真は平成28年8月当時のものです。



# キャリア構築支援

## キャリア構築支援とは

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業では、平和構築・開発分野の国際機関等での就職を希望する方を対象に、ポストに応募する際に有益となるノウハウ(履歴書の作成、面接の対応等)を提供します。

## 平成28年度 キャリア支援セミナー

今年度のキャリア支援セミナーは、平和維持/平和構築・開発に関連する分野で5年以上職務経験を持ち、今後、国連機関で働くことを希望する日本人の実務家40名を対象に、平和維持・平和構築及び開発分野における国連ポストの獲得に必要な知識とスキルを習得する機会として実施されました。本セミナーは参加者の専門分野ごとに日程を分けて実施しました。午前中は講師から全体向けのガイダンスがあり、午後は個別指導を実施しました。個別指導では、各参加者が平和構築・平和維持と開発分野に分かれ、講師と一対一で参加者の経歴に即したより綿密なアドバイスを受けました。本セミナーでの研修内容を活かして、将来的に国連機関で活躍する人材が輩出されることを期待します。

### カリキュラム・講師紹介

日程

対象分野

11月3日(祝) 大阪  
11月5日(土) 東京  
11月6日(日) 東京

政務、法務、民生、経済、選挙支援、人権、人道、保健・衛生、法の支配、社会、財務、人事、調達、IT、情報管理、広報、輸送、セキュリティ、サプライ・チェーン管理等

平和維持/平和構築分野担当講師  
アンソニー・P・ダンカー  
国連フィールド支援局 (DFS) フィールド人事部次長  
開発分野担当講師  
ナウアル・ドリウェシ  
国連ボランティア計画 (UNV) 人事課長



Message

参加者

今村 沙織

今回のセミナーで採用担当者の方々と直接お話ができたことは国際機関への就職活動に有益な情報を得られる大変貴重な機会となり、勇気づけられました。

中でも個別面談では、提出書類の添削を通して、これまでの勤務経験を客観的に評価していただきました。また、これからのキャリア構築についても、助言していただきました。

私は今まで、東南アジアの子どもたちを対象とした草の根活動、さらに、教育分野におけるアフリカでの日本ODA事業、国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) でのEUにおける教育プロジェクトの分析評価業務等をインターンとして行い、幅広い教育分野での知見を広めてきました。その後、国際機関での就職を視野に入れるようになりましたが、応募書類の書き方や面接の傾向や対策に関する情報を得ることの難しさを感じ、このセミナーに参加させていただきました。

このセミナーで得た情報やアドバイスを参考に、国際協力分野で活躍できる人材になることを目指しています。



Message

講師

ナウアル・ドリウェシ

国連ボランティア計画 (UNV) 人事課長

「持続可能な開発」の2030アジェンダと17の持続的な開発目標 (SDGs) の実施が開始された今、参加者が平和と開発の分野でやりがいのあるキャリア構築について学べる「キャリア支援セミナー」に講師として招かれたことを光栄に思っています。これらの開発目標はこの先15年間で優先すべきグローバルな開発の指針となり、より平和的で豊かな、そして持続可能な未来のため、かつてない機会を提供します。それはまた、普遍的、包括的で、そして人々が中心であり誰一人取り残さないことを目標として掲げています。私たちが、自分たち、そして地球の未来に対し責任を共有している以上、その目標は私たち全員にとって重要なものです。国連ボランティア計画 (UNV) はその任務から、新しいアジェンダにおける人々のオーナーシップ、そして参加を促進していく上で最も適した機関であると言えるでしょう。ボランティアリズムは、自分自身の成長を可能とし、個人や集団での行動を促進させることで、社会的連帯や信頼を強化させ、そして人々による人々のための持続可能な開発をもたらします。2016年はSDGsの履行1年目であり、UNVはグローバルなアジェンダの実施を担う必要不可欠なパートナーとしての地位を確立してきています。各国政府および国連諸機関は、現場におけるUNVの迅速な対応能力を次第に認識してきています。それゆえにUNVはますます複雑化するグローバルな開発および平和構築という分野において、最適なパートナーになってきました。UNVは、コミットメント、包摂、関与、連帯 (commitment, inclusiveness, engagement, and solidarity) という根本的な価値を体現しています。日本はUNVの強力なパートナーであり、私は本セミナーに参加でき嬉しく思います。参加者の皆さんがボランティアリズムの力に触発され、今後平和と開発の分野において私たちとともに活動していくことを望んでいます。



※講師の肩書は平成28年11月当時のものです。



## その他の活動

研修コースやセミナーの他に、「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の一環として、JPO派遣候補者赴任前研修、海外機関との関係強化などを行いました。

### JPO派遣候補者赴任前研修

平成29年1月7日から10日までの4日間、平成28年度JPO派遣候補者選考試験合格者を対象とした赴任前研修を実施しました。経験豊富な講師の方々による大変有意義な研修となりました。それぞれ派遣先の国際機関での活躍が期待されます。

### 海外機関との関係強化

2016年9月26日～30日にボスニア・ヘルツェゴビナで開催された国際平和維持訓練センター協会 (IAPTC) の第22回年次会合や、2016年11月10日～11日にインドネシア・バリで開催された Challenges Forum年次会合に、HPC職員が出席しました。世界各国のPKOセンター関係者、国際機関等の実務家の方々が集うこれらの会合への参加を通じて、各研修コースの内容拡充を図り、参加者との情報交換や知見の共有による関係強化を図りました。

